

令和6年度 いのちの授業 事例集（中学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

77

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中複合	総合的な学習の時間	人権プログラム	生徒の実態に合わせ「子どもの権利がある週を創造する営み」を通して、講師の方より子どもの権利条例についての説明を聞いて理解を深めた。そこから人権の標語をグループで考え、クラスで代表の標語を選出し、ポスターを作成した。また、各クラスの代表者は生徒朝会にて、各クラスの標語と作成したポスターを発表した。	講師：教育活動総合サポートセンター
2 川崎市	中複合	総合的な学習の時間	交通安全教室 「恐怖を直視し、自分の命を自分で守る」	「生徒が自ら命を守ることができるように、交通ルールの再確認と交通事故の恐ろしさを体感する」をねらいとし、全校生徒で交通安全教室と恐怖の直視体験を行った。自動車側からの視点や死角の怖さを体験することにより危険さを知ることができた。川崎署の職員の方から「自転車での中学生の交通事故の原因と対策」の講義をいただいた。交通ルールをしっかりと守り、自らの命もしっかり守ることを、真剣に考える姿が多かった。	全学年の総合的な学習の時間の中でスタンプや区役所・川崎警察署から職員の方をお招きし、講演や体験を行った。 （参考資料）講師の方から配布された資料
3 川崎市	中 1	総合的な学習の時間	防災教育	「地震・津波時における生徒の自主的避難」の育成を主眼として3年間を見通した取り組みを計画し、本学年では「防災を知る」ことを目標に設定した。川崎市防災ポータルサイトや、川崎市役所で配付しているハザードマップを参考にしながら、「オリジナルハザードマップ作り」「オリジナル防災袋作り」に取り組んだ。この活動を通して、災害から非難する際の注意点や、避難場所へのルート途中の環境など、生徒自身が身の周りをよく観察するようになった。	川崎市防災ポータルサイト、土砂災害や洪水等川崎市が作成している各種ハザードマップ
4 川崎市	中 1	総合的な学習の時間	人権尊重教育	1 学年の生徒全員が体育館に集まり、オンライン形式で拉致被害者家族の講演を聞いた。当日は、事前学習だけでは知ることができなかった内容も含まれており、初めて知った内容に驚くとともに、人権問題について考えを深めていた。感想用紙から、自分自身の人権とともにほかの人の人権も大切にしながら前向きに学校生活を送るといった内容のものが多く書かれていた。	講師は、拉致被害者の会の方
5 川崎市	中 1	総合的な学習の時間	「SOSの出し方、受け止め方」	中学生が生活する中で、「相談してよかった」という事例をあげさせ、自分らが困った時の状況を想定し考えさせた。いくつか生徒の意見を聞いていく中で、親や友人、先生など、身近な人に相談する意見は多い一方で、チャイルドラインなどの相談機関については思いつかない生徒が多かった。授業の後半には事前に設定した場面を個々で考えて、班内で共有した。同じ場面でも人によって相談する人や場所、仕方の違いを認識させながらSOSの出し方について、共有した。	・学年で共通したスライドを使用することで、学年全体で共通認識を持つことができた。

6	川崎市	中 2	総合的な学習の時間	SOSの出し方・受け止め方について 「SOSをどこに出す？」	授業の始めに、中学校生活や普段の生活ではどのようなことに悩みやすいか、また悩んだり困ったりしたときに、相談する人や場所にはどんなところがあるのかについて意見を出し合い、人によって悩みや困り感には違いがあること、相談する相手や場所も人それぞれであることを確認した。共生共育の資料にある事例について、どのように相談をしていることが良いのかについて意見交流を行い、多くの人に相談することが大切であることと、チャイルドラインなどにも相談できることを確認した。	・各学級担任が担当 ・共生共育の資料を活用することで、生徒同士が活発に交流しながら話し合いに取り組むことができた。
7	川崎市	中 1	総合的な学習の時間	総合防災教育	①自分たちの住む地域のオリジナルハザードマップを、地区の班で作成し、地域の危険を予測した。 ②オリジナルハザードマップの作成後、実際にその場所にいる時、予測した危険がおきたらどんな行動をするか予測した。 ③作成したオリジナルハザードマップを宮前区役所の危機管理担当の方に見ていただき、防災や命を守ることにについて講演を頂いた。 ④講演後、危険を災害時に絞り、中学生の立場で、地域の方の命を守るための行動について個人で調べ、スライドにまとめた ⑤オリジナルハザードマップと、中学生でもできる災害時の地域貢献についての発表を、代表の地区班の生徒が、コミュニティースクールで、地域の方に向けて発表をした。	講師：宮前区役所危機管理担当
8	川崎市	中 3	総合的な学習の時間	平和学習 【私の平和宣言】	「平和」をより良く生きることととらえ、平和な社会の実現に向けて大切なことを考え話し合う活動をおこなった。その後、自分達が今後どのように生きていくかを平和宣言にまとめた。その中で、「互いを尊重すること」、「あたり前の日常に感謝すること」「自分の命を大切にすること」など、多くの意見が出された。一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感でき、だから自分も友達も大切にしていかなければいけないということを考える機会となった。	平和宣言を書くまでに活用した資料 広島平和記念資料館（平和記念公園） 歌「空は今」
9	川崎市	中 1	総合的な学習の時間	子どもの権利学習派遣事業 「CAPプログラム」	「安心」「自信」「自由」など生徒にとって基本となる権利の意味やその行使のあり方、そして自分は「大切な存在」だと気づくことを目的とした授業が行われた。生徒は被害者、加害者、傍観者のいずれにもならないためにロールプレイを体験しながら、もしものときにどうするか、ということを講師と共に考えた。また、困った時は子ども同士で助け合ったり、おとなに相談するような意識づけを行った。	エンパワメント かながわ
10	川崎市	中 2	総合的な学習の時間	「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」	講演会を通して、多様性とは何か、そして私たちが多様性を尊重するためにできることは何かということを考えた。『身近な人にカミングアウトを受けたらどうするか』と『ちがいを大切にするための工夫について』のワークを通して、自分と周りの意見を共有しながら、自分の考えを深めていた。	認定特定非営利活動法人 Rebit

11	相模原市	中複合	総合的な 学習の時 間	人権習慣 「人権とな何 か」	本校では、5月、6月に人権月間として命の大切さの授業を行っている。（全4回） ・1回目：ワードウルフ（アサーティブな自己表現） ・2回目：SNSの利用（なりすましアカウント） ・3回目：障害のある人と人権（誰もが住みよい社会をつくる） ・4回目：自分の経験を元に人権に関する作文を書こう。 この人権月間で学んだことを人権作文として書かせ、生徒に考えさせる。 このような取り組みを通して「いじめは人間として絶対に許されないこと」という意識の 育成行っている。	・ SNS動画関連は文部科 学省から引用。
12	相模原市	中2	総合的な 学習の時 間	性教育	人との距離感から、恋愛の感情についてなど、段階を経ながら、性に関する基本的な知 識について講話をしました。望まない妊娠の防止や性感染症の恐ろしさなど、自分や大切 な人の命を守るために必要な知識をわかりやすく伝達できました。	養護教諭による講話
13	相模原市	中2	総合的な 学習の時 間	震災教育	東日本大震災当時の大船渡市を訪問した際のスライドを用いて震災について説明をして くださった。生徒は命の大切さについて学んだ。	明星大学
14	相模原市	中複合	総合的な 学習の時 間	「人権」とは何 か。 生命の大切さ・ 人を大切にする とはどのような ことか	夜間学級では国籍・年齢が異なる生徒を対象として、国際的な人権意識を学ぶ機会とな るように講演を依頼した。実際の活動の様子を見ることで国境なき医師団について理解し たり、講師自身の海外での経験を聞くことで人権について学ぶことができた。自分の生命を 大切にすることや周囲への思いやり、感謝の気持ちについて、それぞれが考える機会と なった。	講師は、国連NGO 横浜国際人権センター 会長 国境なき医師団（DVD） 説明スライドを使用
15	相模原市	中1	総合的な 学習の時 間	防災学習	主に地震・火災・風水害の時にどのような被害が起きるのか、実際に発生した場合に命 を守るために一人ひとりがどのような対応をしなければならないかを、動画やゲームなど を通して学習した。また、地域の防災政策について、公共施設の設備などを見学した。	防災マイスターを講師として、 クロスロードゲームに取り組ん だ。 県防災センター・厚木ぼうさい の丘公園で体験学習およびオリ エンテーリングを行った。
16	相模原市	中2	総合的な 学習の時 間	防災学習	主に地震・津波について、県内の被害想定や防災設備などの仕組みについて学習した。 また、横浜市の防災センターを見学し、体験学習を行った。	横浜市防災センターの 見学・体験学習
17	相模原市	中3	総合的な 学習の時 間	防災学習	東北修学旅行に向けて、東日本大震災や津波の被害、防災政策などについて学習し、現 地で語り部の講話などを聞いた。 学区内の防火対策について調べ学習を行った。	

18	相模原市	中複合	総合的な学習の時間	国際問題への意識づけ いのちの大切さ	7月の道德の時間に事前学習を行い、リーフレットや動画の検索により国境なき医師団の活動を知った。その上で感想と講師への質問をFoamに打ち込み講師に伝えた。それを元に夏休み明けに講演を行って頂いた。アフリカ・イスラエル・ウクライナなど世界各地の現状と国境なき医師団の活動、日本の震災での活動やさまざまな人との関わりを知ること で、生徒達は自己を振り返り、自分に何が出来るかを考える機会となった。講演後ふり返りシートで感想と講演者へのメッセージをまとめた。	国境なき医師団 救命医 リーフレット 「国境なき医師団って なんだろう？」
19	相模原市	中 2	総合的な学習の時間	性教育 「ほんとに知りたい！性のはなし」	「生殖機能の発達により妊娠や出産が可能となることを認識し、自らの生活習慣を振り返り、将来につながる自分の体を大切にすることについて考えさせる」をねらいとし、性とはなにか・妊娠・性感染症について・望ましい他者との関わり方について講演をいただいた。	講師：NPO法人ピルコン
20	相模原市	中 3	総合的な学習の時間	いのちの大切さを学ぶ教室 「生きるとは何か」	中学校3年間の総まとめとして「性」を「命」の視点から振り返り、生きるとは何か、これから自分はどう生きるかを考えさせた。	神奈川被害者支援センターに講師を依頼。
21	相模原市	中 3	総合的な学習の時間	「性感染症とその予防法について学ぶ」	性感染症は特別な病気ではなく、誰でも感染する可能性があることを認識し、その症状や感染経路、予防法について専門家から学んだ。また、性的マイノリティについてもふれる機会となった。	NPO法人 ピルコン
22	相模原市	中 1	総合的な学習の時間	福祉体験 「支え合いと共生を深める福祉体験学習」	総合的な学習の時間に福祉体験を行った。生徒は各グループごとに車いす体験、点字体験、スルーネットポンポンを実施した。これらの体験を通して、障がいを持つ人や高齢による心身の変化を理解し、その困難を知るとともに、助け合いの大切さについて考えた。また、共に支え合いながら暮らす社会の在り方や、自分たちができることについて深く考える姿が見られた。生徒たちは共生の意味を体験を通じて実感し、互いを尊重する態度を学んだ。	講師は、相模原市社会福祉協議会に依頼。 実際の体験や講師の方々の講話から新たな気づきを発見することができた。
23	横須賀市	中複合	総合的な学習の時間	災害の際に自分のとるべき行動を考える機会とする。	地区町内会に分かれ、町内会別で地域主催で防災訓練、講話などを行った。	湘南鷹取地域の各自治会の皆様のお力をお借りして、防災のお話や体験活動を実施した。
24	横須賀市	中 1	総合的な学習の時間	喫煙防止教室	喫煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議から講師を招き、喫煙が心身に与える影響についてご講演いただいた。講師の方がPowerPointを使用しながら、実際の映像も合わせてたばこの危険性を分かりやすく教えて頂いたので、生徒が様々な事（体に害のある事や、危険性など）を考えるきっかけを与えていただいた。元々のテーマである、生徒たちの「自他の命を大切に思う心」を育て、将来に向けての自己決定や行動選択を自ら行うことができるように、という部分を深く考える事が出来た。講演後の生徒の感想では、喫煙による危険性や、喫煙をしている家族と相談するなどの内容があり、改めて今後の生活を健康に過ごしていこうと考える姿が見られた。	講師：喫煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議

25	横須賀市	中 1	総合的な 学習の時 間	福祉体験	横須賀ボランティアセンターのご協力を得て、手話、視覚障害者誘導、点字、車イス、要約筆記の体験を行った。疑似体験を通して、その境遇にある方に対して自分は何ができるのかを考えた。相手の気持ちや立場を推し量って対応することの難しさと同時に、コミュニケーションの大切さを感じることができた。人生を豊かに生きるためには、お互いに支え合い、助け合うことが重要だと学んだ。	ボランティアセンター が依頼した各事業所
26	横須賀市	中複合	総合的な 学習の時 間	性教育講演会 「いのちのお 話」	1年生は「発達段階に応じた基本的な性に関する内容を理解し、自らの性を肯定的に捉え、他者を思いやる態度を養う」こと、2年生は「妊娠・出産、などの現状を知ること で、性について正しい情報を得ることが大切であることを理解し、自他の性を的確に理解し、認め合う態度を養い、豊かな人間関係を築かせる」ことをねらいとし、妊娠、出産について、命の大切さ、性の多様性L G B Tなどについて、助産師の方の講演を受けた。生命の誕生を知り、命の大切さや尊さを再確認することができた。	講師：横浜市民病院元 助産師、性教育講師 複合学年(中1． 2)
27	横須賀市	中 3	総合的な 学習の時 間	性教育講演会 「いのちのお 話」	「自らの性を肯定的に捉え、その社会的・文化的な役割を理解し、実践する、同世代の性感染症や妊娠・中絶・出産、などの現状を知ること、性について正しい情報を得ることが大切であることを理解し、卒業後、直面する性の諸問題に対してよりよい行動選択ができるようにする」ことをねらいとし、若い世代の、性感染症、妊娠、出産の現状について、望まない妊娠、避妊について、助産師の方の講演を受けた。自分ごととして考え、パートナーとの関わり方、いのちの大切さについて再確認することができた。	講師：横浜市民病院元 助産師、性教育講師
28	横須賀市	中 2	総合的な 学習の時 間	防災学習 「首都直下地震 から自分を守る 方法を考えよ う。」	大きな地震が横須賀市内で起きた場合、自分たちが住んでいる地域はどのようになってしまうのかを考えさせ、クロームブックを使用し、班でまとめて発表をさせた。また、大きな地震から自らの命や家族の命を守るために、どのような知識があると良いかを様々な方法で調べさせた。ただ調べるのではなく、お台場にある「そなエリア東京」に校外学習として行き、地震発生後72時間の生存力をつける体験ツアーを行った経験したことを自分なりの言葉でまとめ、さらに自分の命や大切なひとたちの命について考えさせた。発表後の事後指導の中では、大きな地震が起きる前に備えることが大切であり、備えたことにより命を守れることを多くの生徒が感じていた。	特になし。
29	横須賀市	中複合	総合的な 学習の時 間	防災教育	大きな災害の後、学校の体育館などの公共施設で避難所生活が始まる。そこで中学生には助けられる側ではなく、助ける側の一助として期待されている。地域で行っている避難所運営訓練に全校生徒で参加し、そこでのルールやマナー、道具の使い方や助け合いの精神について地域の方と一緒に考えた。初めて知ったことも多く驚く様子も見られ、自分事として真剣な態度で考えることができた。また災害時、自助のための対応方法や、ハザードマップの作成などの活動を通じ、普段の生活の中でも人のいのちを救うために自分たちに何ができるか考え出した生徒もいた。	地域の方々 市職員 全校生徒

30	湘南三浦	中 1	総合的な学習の時間	疑似喪失体験	自分の大切なもの、人、場所を一つ一つカードに書き出した。東日本大震災を現地で被災した方の体験談を職員が生徒に話しながら、指示に従いカードを捨てていった。「それはもう二度と戻ってこない。その人に二度と会うことが出来ない」という言葉を聞いたとき、多くの生徒は神妙な表情でうつむいていた。当たり前日々過ごしていることが、一瞬にして無くなってしまう、家族がいて友達がいて不自由なく過ごしていることが、どんなに貴重な事なのか、ということを経験できるプログラムだった。	東日本大震災で被災した岩手県の高校教員の手記をもとにプログラムを行った。
31	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	防災パネルディスカッション～災害を自分事とするために～	講師を招き、東日本大震災を現地で体験した方の話を聞いた。地震の瞬間のこと、避難生活の様子や感じたこと、災害時における心構えなどについての話だった。この大震災のことを話や映像などでしか知らない生徒たちだが、実体験をした方の話は心に迫るものがあって真剣に聞いていた。「まず、いのちを守る」ことを何度もお話されていたのが印象的だった。災害が起きた場合に自分の命を最優先に守ること、さらに自分には何ができるかを考えている生徒もいた。	講師は、元本校職員。一年生から三年生までの全校生徒で講演を聞いた。
32	湘南三浦	中 1	総合的な学習の時間	防災学習 防災マップ作りから地域のために何ができるか考える	学区の危険箇所、起こりうる災害などをクラス、班で話し合い実地調査をもとに災害マップの作成を行う。マップ作成の過程において、災害時にはいかに協力して皆で助け合っていくのかを考える。 学区内には高齢者の割合が多く中学生が災害時に地域の中心となって活動することをこの学習から学ぶことができた。	自分の住んでいる学区を散策して地域を知る
33	湘南三浦	中 3	総合的な学習の時間	防災学習 誰一人取り残さない避難所体験学習	青森県「みらいネット」の協力により、本校が大規模地震時の避難所になったことを想定し起こりうることをシュミレーションしながら、課題に取り組んでいく学習。避難者には一般の方以外にも高齢者、妊婦の方、障がいのある方など多くの方が避難してくる。様々な立場の方に視点を当て、災害時にお互いが支え合っていけるような避難所運営を生徒たちが考えていく。	男女共同参画 「地域みらいネット」 鎌倉市総合防災課
34	湘南三浦	中 2	総合的な学習の時間	食育	主に朝食の重要性を学んだ。事前アンケートで、市内中学生や本校生徒の朝食を食べる状況を確認し、朝食を食べることは、脳のエネルギー補給だけでなく、体温を上昇させたり、体をつくったり、排便を促す効果もあったりすることなどを学んだ。普段の食事に1品食品を追加するだけで取るべき栄養素が大きく改善されるなど、食事について理解を深めた。	小学校から栄養教諭を招聘
35	湘南三浦	中 1	総合的な学習の時間	防災教育	地震や風水害などの自然災害が起こったときに自分はどう行動するかを災害時に居合わせた場所別に考えたり、避難所において中学生ができる支援を考えたりすることで、いざというときに命を守る行動がとれるようにすることができた。	ハザードマップ等
36	湘南三浦	中複合	総合的な学習の時間	命の大切さ これからの防災について	東日本大震災を経験し、大川小学校6年生だった次女をなくされた佐藤敏郎様より講演。あの日起きたことに、子ども達はどう向き合い生きていたのか。どのような未来に向かおうとしているのか。大人たちの役割は？ 3.11をどのような学びに変えていくべきなのか。深く考えさせられる内容でした。	事前学習プリント配布 ドキュメントをプロジェクター投影(講師ご持参) 全学年対象、保護者参加可で実施

37	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	いじめ防止プロ グラム	生徒一人ひとりが「いじめとは何か。どういったことなのか。」を考える時間をつくりたいと思い、講師の先生を招いて行った。何が暴力やいじめなのか、定義をはっきりさせた後、被害者、加害者、傍観者の心理について話し合った。また、いじめの原因と、いじめる側の行動心理についても教えてもらい、そのイメージを絵や言葉に置き換え発表した。加害者の環境にも光を当てるが、この話しによって、加害行為は許されないが、加害者を排除するだけでは何の問題の解決にもならないことを学んだ。	湘南DVサポートセン ター
38	湘南三浦	中 3	総合的な 学習の時 間	平和学習	「平和って何だろう」をテーマに、1年次より継続して平和学習に取り組んだ。被爆者の証言（オンライン講話とビデオ視聴）を通して被爆の実相を知り、今も戦争の惨禍が繰り返されていることや平和の大切さについて考えた。また、「戦争の反対が平和なのか」という問いから、平和を脅かす「暴力」について平和学の視点で学習を深めた。そして、広島修学旅行の事前学習を兼ねて、核のない世界の実現を目指し地域で署名活動を行う高校生の取り組みから、中学生だからできることは何かを考えた。修学旅行では、実行委員を中心に平和への決意を平和公園で発表する儀式を企画、実行した。	ピースネット 広島平和記念資料館 岩崎書店 『未来をつくる！あたら しい平和学習』 広島テレビ 平和教材サイト
39	湘南三浦	中複合	総合的な 学習の時 間	平和学習	戦争当時の暮らしや、社会全体の様子など、その時代を実際に生き抜いた方の証言として話を聞いた。生徒たちは、それまでに事前に原子爆弾についても学習し、知識を持っていたが、実際に体験された方の苦しみや悲しみをリアリティを持って受け止めることができた。戦争という特殊な状況だけではなく、クラスで生活している中にも平和は必要で、そこには思いやりの心が欠かせないといった、自分ごととしてとらえた感想も見られた。	広島平和祈念資料館 被爆体験証言者 自分の体験をもとにした 内容 資料館で配布する鶴を作 成した。
40	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	福祉体験	車椅子体験、車椅子バスケット体験などを疑似体験し生活の大変さを学んだ。	車椅子バスケットの選 手、藤沢市役所の方々 を講師に招いた。
41	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	福祉体験学習	2年生で福祉体験学習を行った。5つのグループに分かれ、車椅子体験、アイマスク体験、点字体験、手話体験、高齢者疑似体験を行った。様々な体験を実際にする事で、自分ができることや地域のバリアフリーに対して考える事ができた。	社会福祉協議会より、 車椅子や点字、アイマ スクなど借用
42	湘南三浦	中 1	総合的な 学習の時 間	平和学習	本校では毎年第1学年で平和学習を行い、第3学年の修学旅行（広島、京都）につなげている。 第1学年では、平和学習の導入、土台として「平和」とは何か、平和の対義語「非平和」とは何かを、講演を聴いて学ぶだけではなく、ワークショップを通して生徒自身が考えていく機会とした。 さらに、戦争と平和について理解するために、学年全体で明治大学平和教育登戸研究所と川崎市平和館を訪れ、いのちの大切さを考える機会をもうけた。	

43	湘南三浦	中複合	総合的な 学習の時 間	防災訓練	地震を想定し、垂直避難を行う防災訓練を実施。防災訓練は年3回実施予定の2回目となる。1回目は各クラス担任からの説明を受けての火災訓練だったが、2回目は授業担任のもとで実施した。訓練そのものは落ち着いた取り組みであったが、訓練と同じタイミングで体育の授業中、負傷者が出て、救急搬送を行った。その中でも生徒たちは騒ぐことなく、職員室への連絡等自分たちができる対応をとった。	全学年
44	湘南三浦	中1	総合的な 学習の時 間	インクルーシブ な学校になるた めに～みんなで 考えてみよう～	講演では、まず「インクルーシブ」の意味、「インクルーシブな学校とはみんなが大切にされる学校である」ということ、「無意識」のうちに染みついている常識への問い直しを行ったあと、本校の「共に学び、共に育つ」という教育目標に則り、インクルーシブな学校になるためのアイデアを出し合った。アイデアの共有を通して、生徒は自身の希望だけでなく他者の希望を聞き、「みんなが大切にされる」という言葉の意味を再確認しながら、他者の考え方を受け入れていく姿が見られた。	講師 神奈川県教育委員会イ ンクルーシブ教育推進 課指導主事
45	湘南三浦	中2	総合的な 学習の時 間	薬物乱用防止教 室	講師が元中学校教諭、教頭、校長を歴任したことから、薬物と出会う身近なきっかけを具体例を挙げて説明し、中学生に理解しやすく、また、考えさせる内容であった。薬物がなぜいけないのかを自分の問題として深く考えようとする姿が見られ、友人と、意見交換をしながら真剣に取り組んでいた。振り返りでは、講師に向けてお礼の手紙を書くことで、自分自身と向き合い、薬物の危険性を改めて理解した様子であった。	講師 神奈川県薬物乱用防止 指導員
46	湘南三浦	中複合	総合的な 学習の時 間	「地球のステー ジ」	NPO法人『地球のステージ』による、東ティモールやウガンダ等での支援に関するお話とギター演奏のコンサート。本コンサートを通じて、生徒一人ひとりが地球市民の一人としての自覚や自分自身の生き方について考える機会とした。	NPO法人地球のス テージ
47	湘南三浦	中1	総合的な 学習の時 間	防災教育 災害の時にどう すればよいか	消防署に依頼し、クラスごとに若手消防士による授業を行った。大きな地震が来たらどうすればよいか、身を守る方法や、その後の避難生活で何が必要かを考えた。実体験を含めた話に生徒もとても関心を持って聞いていた。避難生活の中では、中学生が率先して手伝ってくれてとても助かったこと、「中学生のみなさんにも期待しています」という話を受けて、防災に対し主体的に捉える様子が見られた。	消防士3名
48	湘南三浦	中1	総合的な 学習の時 間	防災教育 地域の様子を知 ろう	自分たちの暮らす地域にどのような防災施設や防災備蓄があるかを調べるため、5～6人のグループで地域の様子を見学に出かけた。自治会の人から長時間にわたって備蓄倉庫内のことについて説明を受けたり、その方が親から聞いた関東大震災のときのことについて聞いたりした。また、高齢者福祉施設では、津波から逃げる上層階に案内していただき、飲料水の備蓄水槽を確認した。	保護者ボランティアが 各班1，2名で計15 名

49	湘南三浦	中複合	総合的な 学習の時 間	携帯安全教室	昨今の世の中で、闇バイトやオーバードーズ、薬物乱用など中学生の命を脅かす様々な事例を耳にする。その大半に関連しているのが、SNS利用である。SNSの使い方が未熟な中学生に「SNS利用の危険性を理解する」という題材で講演を行った。内容としては、SNSにある甘い誘惑や顔の見えない相手との関わりが、自分の身を危険にさらすことになるというものであった。ニュース等でたびたび報道されている内容が中心の講演だったため、生徒は自分事として話を聞き、SNSやタブレット利用の注意しなければいけないことを意識していた。	講師 株式会社 教育ネット 全学年対象
50	湘南三浦	中 1	総合的な 学習の時 間	交通安全	自転車の正しい乗り方を知るとともに、交通事故にあわないための知識を習得し、交通安全への関心を深めることができた。	講師は茅ヶ崎警察署 交通課交通総務係
51	湘南三浦	中 1	総合的な 学習の時 間	防災アカデミー	「自助と共助」。災害時は救助が来るまでに自分たちでできることを増やすことが大事。また、災害時の避難場所・避難経路・家族での集合場所や各家庭での防災用品の確認など、災害は必ず起こると考えた「備え」が大事なことも教わった。災害時、身近なもので身を守る、人を助けることができるように、日頃から、災害時にどのように使えるかという発想を持つことも大切であることを学んだ。	茅ヶ崎市消防職員 6 名
52	湘南三浦	中複合	総合的な 学習の時 間	[防災学習]災害に直面した「その時」、あなたは どうする？	防災の日である 9 月 1 日(関東大震災があった日)のことを取り上げ、災害に直面した「その時」、あなたは どうするかを考える授業をおこなった。様々な災害に対する意識を高められるよう、クロスロードゲームを用い、自分事として考えられるよう工夫した。	
53	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	「平和教育」	本校では、中学 2 年生で平和教育を行っている。今年度は、まず「海外から見た日本」等の読み物教材や広島から送ってもらった被爆した瓦等の資料をもとに、原爆によって一瞬にしてなくなってしまう命について考察した。その後、教員が平和・戦争に関しての教材をそれぞれ作成し、生徒はそれらの教材の中から関心を持ったものを選び、学習を深めた。平和・戦争というテーマから、一人ひとりの命の尊さについて考えさせることができた。	講師：2 年職員全員 教材：広島から送ってもらった被爆した瓦、リトルボーイの実際の大きさが書かれ絵、広島平和記念資料館啓発課の動画
54	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	人権教育 「平和学習」	・ 2 年「戦争の被害と平和」 1 年次には、「戦争と人々」として戦争下での生活や学校の様子など身近な場面を通して戦争について学んだ。 その学習を受け 2 年次では、沖縄での戦争、空襲の被害、特攻隊について、原爆、日本国外での被害など多角的な視点から学び、調べ学習と発表を行うことで、主に第二次世界大戦にて日本が受けた被害から平和の尊さを考えさせる。	講師は昭和館講師、被爆者を父に持つ横須賀在住の方

55	湘南三浦	中 2	総合的な 学習の時 間	平和学習・身近 な戦争に関わる 施設	昨年度に引き続き、平和学習の取り組みとして、学校近くの戦争関連施設（横須賀水道の道標・県立スポーツセンター内のグリーンハイツ）を見学した。そのときの学習内容をふまえ、身近な地域や旅行先等での戦争関連施設を調査し、夏休みの課題としてレポートにまとめた。	
56	県央	中 1	総合的な 学習の時 間	防災教育	生徒の防災への意識を高めるため、班ごとに分かれ、学区の中を歩きながら地域に設置されている防災設備を確認した。当日地域を歩く中で防災設備を撮影し、学校に戻ってから模造紙の地図に写真を貼ってマップを作成した。	講師：厚木市危機管理 課職員
57	県央	中 2	総合的な 学習の時 間	ジェンダー教育	2年生に対してジェンダーについての授業を行った。ソジーやLGBTQ+について学び、自分の性について深く考えることができた。また、自分とは異なるソジーの人がいるということも学び、多様性について理解を深めた。ソジーの違いで差別したり、それをアウティングすることで相手を傷つけることは絶対にしてはいけないということを再確認し、自分も相手も大切にし、認め合うことが必要だと感じた生徒が多くいた。	養護教諭
58	県央	中 1	総合的な 学習の時 間	福祉体験学習	特殊眼鏡や重り等を装着して実際に動き、加齢による身体機能の低下や心理的变化を疑似的に体験した。年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが住みやすい共生社会を考える機会となった。	厚木市社会福祉協議会 による物品貸与
59	県央	中 2	総合的な 学習の時 間	人権尊重教育 「みんなで学ぼう～性の多様性講座」	ダイバーノンという団体から講師を派遣していただいた。からだの性、こころの性、好きになる性やLGBTQについて説明を受け、言葉の意味や内容の理解を深めた。もし、自分のセクシャリティについて相手に伝えたときや、他の人のセクシャリティについて知ったときの受け止め方、その話を本人の同意なく周囲に話してはいけないことなどを学んだ。性の多様性を受け入れ、共生していこうとする心情を養う機会となった。	講師：ダイバーノン
60	県央	中 1	総合的な 学習の時 間	福祉学習	福祉に関わる仕事に従事している方から、「どんな仕事をしているのか」「支援をしている相手の特徴や、どんな支援をしているか」などについて話をしてもらった。生徒が話を聞いたり、質問をしたりすることで、障がいがある方や高齢者、幼児などと共に生きていく上で大切なことについて深く考えることができた。	講師：座間市社会福祉 協議会、緑の家、栗の 実保育園
61	県央	中 1	総合的な 学習の時 間	国際理解	unicef協会に依頼し、「国際理解」をテーマに講演をしていただいた。講師は、貧困地域を中心に世界各国を訪れたことがあり、自身が実際に見たことを、写真を見せながらお話してくださった。貧困地域、紛争地域の子供たちが、劣悪な環境の下、学校に通えずに労働を強いられる現状や、兵士として生きていかなければいけない状況を知った。講演後は、貧困地域の水や環境の違いに目を向け、「アフリカの生活」「トイレの作り」などをテーマに調べ学習を進める生徒もいた。	講師は、unicef協会に 依頼。

62	県央	中 1	総合的な学習の時間	いのちの授業	助産師から出産といのちの誕生についての講話を行った後、保護者代表から保護者から見たいのちの誕生について話を聞いた。また、ベビー人形抱っこ体験も行った。生徒達は、精子と卵子が受精する確率の低さや生まれるために赤ちゃん（自分達）がもっていた力を学ぶとともに、保護者がいのちを迎えるために行う準備や持っている思いを感じていた。	講師・助産師
63	中	中複合	総合的な学習の時間	自転車マナーアップスクール	平塚警察署の警察官による交通安全講話とスタントマンによる自転車事故を想定した交通安全教室（スクアードストレイト）を実施した。実際の車両を使用し、トラックの内輪差による事故や横断歩道通行時の事故、一時不停止による事故等の実演を見た。歩行者と車両の衝突音に大勢の生徒が驚いていた。自分に起こりうる事として捉え、真剣に見ることができた。	平塚市警察署 スタントマン 1～3年
64	中	中 2	総合的な学習の時間	福祉体験	福祉体験を通して、障がいのある方や高齢者の方の生活を知り、様々な方への思いやりを育む中で、地域に暮らす人々の日常生活に目を向け、考え、やがてはその解決に向けて動くためのきっかけ作りをねらいとした。具体的には、車いすバスケットボール・手話・点字・高齢者疑似体験・視覚障がい体験をした。実際に体験することで、障がいのある方の様々な苦勞や、大変さを感じることができた。	・講師は、社会福祉協議会から推薦された団体 ・それぞれのコースでテキストを配布していただいた
65	中	中 1	総合的な学習の時間	人権課題	疾病等に関わる人権として、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの流行について触れた上で、主にハンセン病に関わる内容を学習した。また、ハンセン病患者の家族の話を視聴し、命の大切さを学んだ。その後、映画「あん」の観賞を通して、ハンセン病への理解を深めることができた。	厚生労働省「ハンセン病の向こう側」 映画「あん」
66	中	中 1	総合的な学習の時間	防災学習	・防災についての事前学習 教員作成の資料を使った自助共助公助を学び、自分のいのちを守るための行動を知る。 ・横浜市民防災センターでの体験学習 災害を疑似体験し、身を守るためにできる行動を実践した。また、防災・減災の考え方や応急的な対応の仕方などを学び、生存するための手段を学んだ。 ・防災についての事後学習 事前学習や体験学習の内容をスライドにまとめ、発表することで、全体の内容確認、周知をした。	横浜市民防災センターでの体験学習
67	中	中複合	総合的な学習の時間	「いのちをいただく」	「いのちをいただく」という食育の視点を大切にし、枝豆とサツマイモを育てる過程を通して、食の大切さや自然の恵みに対する感謝の心を育んだ。さらに、収穫した野菜を調理し、実際に味わうことで、食への関心を深めた。今回の授業を通して、子どもたちは「野菜を育てることの大変さ」「食べ物への感謝」「料理の楽しさ」を体験することができた。収穫した野菜を自分たちで調理し、味わうことで、「いのちをいただくことの大切さ」を実感した。	対象：特別支援級（1～3年） 期間（4～1月） 野菜の栽培（枝豆・さつまいも） 調理実習（ゆで枝豆・スイートポテト）

68	中	中複合	総合的な学習の時間	夏休みの過ごし方～夏休みに潜む危険～	オンラインと対面のハイブリット方式で、全校を対象に実施した。過去の夏休みに実際に起きた水難事故を題材に、交通ルールや熱中症、河川や海の危険について確認し、そういった事故を防ぎ、安全に夏休みを過ごすために大切なことは何かを、グループワーク等を通して共有、深めていった。	
69	中	中複合	総合的な学習の時間	防災教育・訓練「シェイクアウト訓練」	全校生徒を対象に地震についてのスライドを使った学習と避難方法の確認を行い、その後強い揺れの発生を想定してシェイクアウト訓練を実施し、振り返りを行った。 その他にも1学期には大地震を想定した引き取り訓練、火事を想定した避難訓練、2学期には地震を想定した避難訓練と、近くの川が山からの水で氾濫した時を想定した垂直避難訓練を実施するなどの防災教育を行った。	
70	中	中2	総合的な学習の時間	性教育講演会	自分自身が、今生きていることは当たり前ではないということを理解する。どのようにして命が生まれて（性行為の話）きたか、どんな時期（赤ちゃんの時、思春期など）を経て、今の自分の体が成長しているかなどのお話があった。	
71	中	中3	総合的な学習の時間	「自分を大切にすること」	講師による「自分を大切にすること」という講演会を視聴した。その中で、生徒たちはエイズに関する正しい知識や中学生に必要な性に関する知識を学ぶことができた。講演後の感想として「自分の命を守ることは相手の命を守ることもあることがわかった」や「命の大切さを心から感じる事ができた」などということを書いてくれた。また、講演を視聴した保護者も「性に関する事はなかなか家庭では話す機会がないので、学校でこのような講演会を開催してくれてとても良かった」という感想を書いてくれた。	講師 山梨大学非常勤講師 健康教育アドバイザー
72	中	中3	総合的な学習の時間	性感染症について	性感染症（エイズを含む）についての正しい知識を得るとともに、性や性感染症についての事前アンケートを基に、思春期の性に関する意識や行動、性感染症の予防について考える機会となった。生徒からは、自分や他者の大切さに気付くことができたという感想が多くあげられた。	講師 山梨大学非常勤講師 健康教育アドバイザー
73	中	中2	総合的な学習の時間	いのちの授業 赤ちゃん人形抱っこ体験	生徒一人ひとりが、自分が生きている素晴らしさを知ると共に、自他共に誰もが尊い存在であることを学ぶ。また、男女の心身の発育発達や二次性徴についても学習する。	あゆみ助産院 医師
74	中	中2	総合的な学習の時間	生命と性の健康教育	思春期である中学生に対し、改めて生命誕生のすばらしさを実感し、今の生活が未来の自分につながっていることを自覚するとともに、自分と他者を大切にすることを育てる。	昭和大学 教授

75	県西	中 2	総合的な 学習の時 間	ヒロシマ（原爆 投下と命）	日常の一コマで起きた「原爆投下」について学び、実際に被爆した人の話を録音で聞いた。 命が儚いものであること、たまたま広島に行ったなどのほんの少しの違いにより、被害にあって被爆した人、亡くなった人がいることに思いを馳せた。唯一の被爆国として、一瞬で命がなくなり酷い被害を受けてしまう原爆は投下してはならないことや、それぞれの命を大切にするために戦争によるこの被害を風化させてはならないことを学んだ。	本校教員（学年所属職員）：自身の家族や知人からの聞き取りにより作成したパワーポイントなど
76	県西	中 1	総合的な 学習の時 間	福祉体験学習	耳の不自由な方とボランティアの方に来校していただき、生活やコミュニケーションの方法についての話を聞き、手話の体験を行った。日々の生活で大変なことや困っていること、また公共の場で導入されてきた工夫について紹介していただき、身近に耳の不自由な人がいるかもしれないという視点をもって生活することの大切さを理解することができた。また、手話を勉強してみたい、手話が分からなくても他の方法で意思疎通ができるかもしれないなど、福祉活動への意識を高めることができた。	講師：町内で活動する手話サークルの方々
77	県西	中複合	総合的な 学習の時 間	防災教育 「災害からいのちを守る」	真鶴町の防災訓練に全校生徒で参加する形で、防災学習を行った。真鶴町の災害とこれまでの被害について、また、地震に対する備えなどについて自治会連合会会長さんの講話を聞いた。その後、体育館で、応急手当、担架作り、A E D 訓練、自衛隊体験など様々な体験をし、最後に隊員の方々が調理したカレーをいただいた。生徒は簡易ベッドを組み立てたり、テントに入ったりして、災害時の疑似体験をし、もしもの時どのように命を守っていくのか真剣に考え、感想を書いていた。	真鶴町自治会連合会会長 湯河原消防のみなさん 自衛隊のみなさん